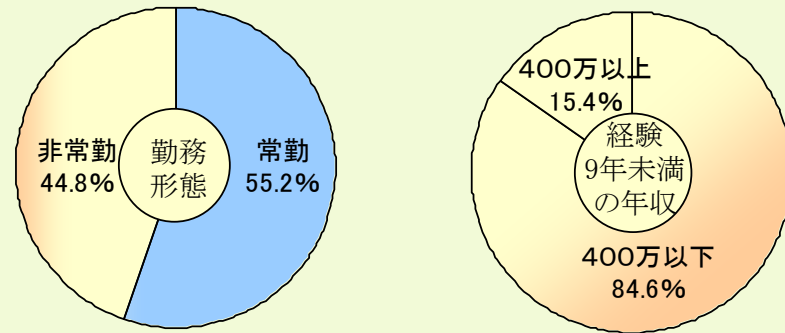


## 【医療保健現場での臨床心理士】

現在、日本臨床心理士会会員 14,360 名（2007 年 3 月 31 日現在）のうち 46.4%（約 6,700 名）が医療保健領域の業務に携わっています。その活動は、精神科領域だけでなく、さまざまな診療科、先端医療の領域にも広がっています。また、職場の内外にネットワークを形成し、包括的な医療や地域援助チームの一員としての役割を得ています。

## 【臨床心理士の職場状況】

医療保健領域での勤務形態は、約 55%が常勤で勤務しています。常勤者で経験が 9 年未満の人の約 85%は、年収 400 万円未満です。



（2006 年度臨床心理士へのアンケート調査より）

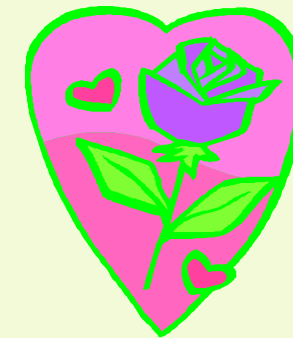
## 【医療保健現場での臨床心理士の仕事】

心理カウンセリング	秘密が守られる環境で面接を行います。一般には 1 回 50 分程度で個別に行われます。
心理検査	患者さんの治療や援助を最適に進めていくために、知能検査、ロールシャッハテストなど、さまざまな検査を行います。
集団アプローチ	複数の患者さんを対象に言葉でのコミュニケーションや何らかの活動を通して援助します。ソーシャルスキルトレーニングや心理劇などが行われることもあります。
デイケア	精神科に通院される患者さんのための治療形態のひとつです。作業療法士や看護師などのスタッフとチームを組んで、レクリエーションや創作活動、生活指導、作業指導などに取り組んでいます。
カンファレンス	関わりのある複数の専門家が集まり、患者さんの問題を見立てたり援助の方法を検討したりします。情報の共有と全体での守秘義務を守ることが重要視されます。
コンサルテーション	医療保健施設の内外で患者さんに関わる様々な職種の人に対して、臨床心理的な助言を行います。地域援助活動の一環でもあります。
リエゾン	医療保健施設の内外でさまざまな職種の人と継続的に連携するシステムを作って、患者さんを援助しています。

（参照：『心理臨床大事典』培風館）

発行：日本臨床心理士会 113-0033 文京区本郷 2-40-14 山崎ビル 401 office@jsccp.jp  
発行年月：2007.10.

# 臨床心理士のしごと —医療・保健領域—



日本臨床心理士会

<http://www.jsccp.jp>

医療保健領域委員会



## 臨床心理士が関わる主な疾患など

### 精神科・心療内科などを受診することが多い

統合失調症	摂食障害	育児不安
気分障害・うつ病	性同一性障害	PTSD
人格障害	不安障害	アルコール依存症
パニック障害		・・・など

◇精神科だけではなく、幅広い診療科で活動しています。

◇身体疾患の患者さんの心のケアにも、多く携わっています。

### その他の診療科を受診することが多い

不妊症	AD/HD	糖尿病	ターミナルケア	腎臓病(人工透析)
低出生体重	学習障害 (LD)	クローン病	HIV・エイズ	聴覚障害
周産期	アトピー	脳血管障害	がん	視覚障害
知的障害	肥満(メタボリック症候群)	心臓疾患	高次脳機能障害	遺伝子疾患
広汎性発達障害	更年期障害	臓器移植	脊椎損傷	疼痛性障害
				・・・など

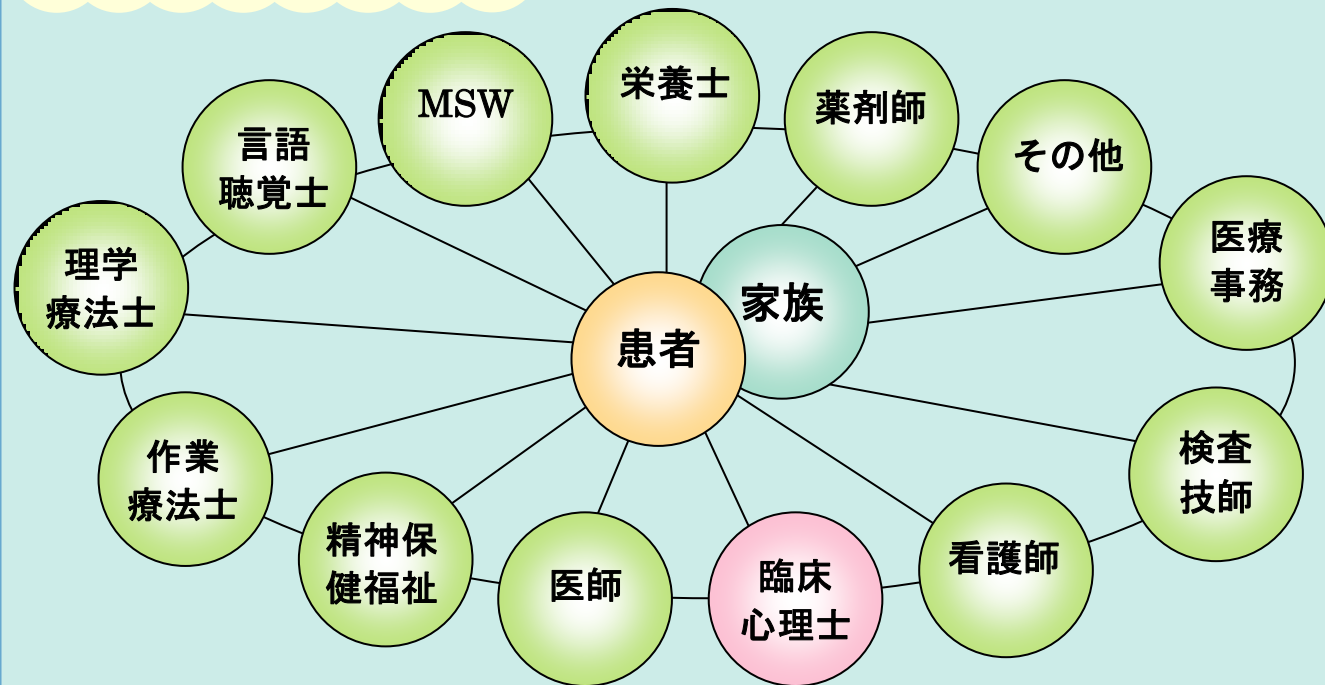
## 臨床心理士が働く主な職場

精神神経科	内科
心療内科	遺伝子医療部
児童精神科	救急救命センター
小児科	外科
産科	ペイン科
婦人科	リハビリテーション科
周産期母子センター	緩和ケア科
皮膚科	保健所・精神保健福祉センター
皮膚科	市町村区の保健センター
歯科・口腔科	児童相談所
耳鼻咽喉科	老人医療施設

◇この他の診療科で活躍する臨床心理士もいます。

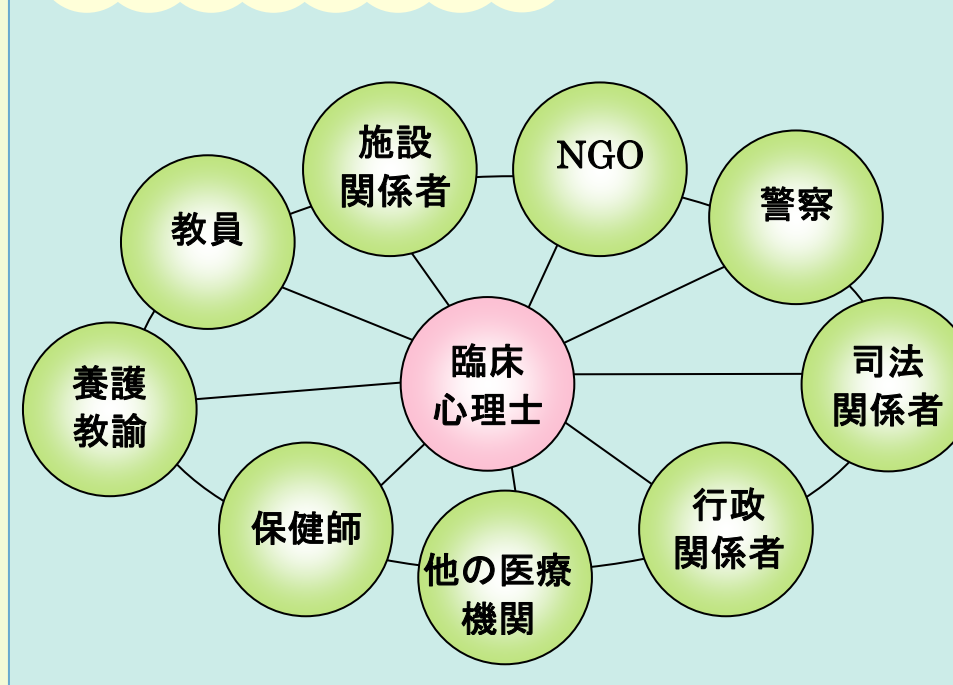
## 臨床心理士が関わるネットワーク

### 施設・機関内のネットワーク



◇コンサルテーション・リエゾン医療の一員として大きな役割を担っています。  
◇患者さんとそのご家族への支援を行っています。

### 施設・機関外のネットワーク



◇地域援助のサポートネットワーク作りに参加しています。

